

# 事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人 RJ 対話の会

事業名 地域から孤立した人・世帯を支援するオンライン対話事業

## 1 事業の目的

- ①オンラインで、自宅や自室に引きこもり社会的に孤立する人たちとの対話、お互いを知り合い・つながり合う修復的対話トーキングサークルを実践する。
- ②日本で開催できるオンライン版のトーキングサークル・プログラムを開発する。

## 2 事業内容

### (1) 事業の概要

- ①修復的対話トーキングサークルのオンライン開催方法に関するツール作成と開催方法に関する国際的な情報収集。翻訳して実践者を対象に集中勉強会を開催する。
- ②対面のトーキングサークル実践者・参加者とオンライン対話を集中的試験的に体験、オンラインでも対面時と同様に安心して参加できる条件の抽出と開催方法を検討。
- ③上記の過程で協力者を募り、自宅や自室に引きこもり社会的に孤立する人たちを支援する専門職・相談機関事業所に本事業を案内し説明して参加者の紹介を依頼。
- ④自宅や自室に引きこもり社会的に孤立する人たちに限らず、オンライン対話の会を当法人のホームページ等で周知し開催（埼玉県立大学公開講座にも協力して周知）。

### (2) 事業の流れ

- ①作成したオンラインツール・翻訳した資料など

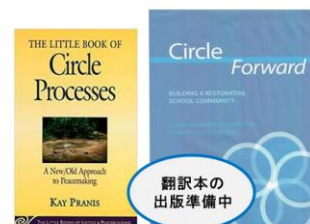


## Online Support Circles in Response to Social Distancing

d d d

Over the past two decades in the Restorative Justice movement, we have been nurturing relationships as the basis of healthy community and as a critical part of any response to the disruption of healthy community. That relational work has been done primarily in physical face-to-face presence with one another. The COVID19 pandemic has severely limited our ability to be physically present with one another. Consequently, many people are seeking ways to continue relational work by other means—other than being in the same physical space. The Internet is proving to be a very valuable resource to support relational work at this time. Online platforms, such as Zoom, GoTo-Meeting, and Skype, can be used to conduct virtual Circles where participants can be in visual and audio connection.

ケイ・プラニス ミネソタ  
サークルの世界的リーダー



## ②オンライン対話プログラムの開発で実施したトライアル開催

### 修復的対話トーキングサークルの構造とルール

トーキングピースという話し手を示す物を持っている人だけが話せる

- ◆お互いを尊重する
- ◆相手の話をよく聴く
- ◆話す相手を非難しない
- ◆話したくない時は話さなくてよい

対話を開始し、ルールを守らせるサークルキーパー

時計周り、または反対周りでトーキングピースをまわす

「話す」と「聴く」を分ける構造

## ③社会的に孤立する人たちを支援する専門職・相談機関事業所への本事業ご案内

**●対話の場には「サークルキーパー」が付きまます。**

「サークルキーパー」は、参加者が安心して安全に対話の場に居られるよう、見守りつつ、場をキープできるように取り計らいます。

聴くだけ参加      声だけ参加

ビデオ画像を出して参加

(可能になったら) 対面での「対話の会」に参加

**■支援団体に連携・協力をお願いしたいこと(例)**

参加者のお誘い/参加者が安心して参加できる関係・環境づくり/必要に応じての参加者へのフォローアップ/他オンライン対話実施に必要と思われるご提案・ご助言など

**■オンライン対話の意義・特徴**

「聴くだけ参加」や「声だけ参加」も OK

1対1で向き合わない複数の人との多様な対話

かわりを持つことが困難な人への新しい「アクセスチャンネル」が得られる。

**■オンライン対話実施の基本的な仕組み**

- ・パソコンやスマホの「Zoom」アプリを使用します。
- ・少数の方(台数等限定)を対象に以下の支援も行います。
  - ① ネット端末機器(タブレット、ヘッドセットなど)、通信機器等の貸出し。
  - ② 機器の設置や使用方法等の説明スタッフの派遣。
- ・支援団体のスタッフ向けに、オンライン対話実施のためのサポート講座を開催します(「オンライン対話プレ体験会」や「Zoomの操作方法講習会」など)。

## ④自宅や自室に引きこもる人に限らず社会的に孤立する人たちと、オンラインで、修復的対話トーキングサークルの会を定期的で開催した(土日・第2第4火曜)。

### (3) 連携・協力機関

- ① 埼玉県内のひきこもり支援を担う保健所・埼玉県精神保健福祉センター、同支援窓口（越谷らるご・ほっとりんご等）、また独自に支援活動を行っている団体にも周知。
- ② Covid-19の影響により埼玉県内保健所はクラスター対策で手一杯の状態となり、自宅や自室に引きこもり社会的に孤立する人たちへの支援として、新たに、当会の事業に協力する余力はなかった。
- ③ 埼玉県内でひきこもり支援を担う保健所や支援団体をバックアップ指導する埼玉県精神保健福祉センター（臨床心理士・精神保健福祉士）とは連携でき、実際に体験してもらうことができた。「参加者の安全を守るために心をくわいている様子が自ら体験できた。おかげでリフレッシュできた。当事者にとって大切な選択肢の一翼になる」「実際に体験してみて ZOOM にも対話にも不慣れだったが、温かくとても居心地がよく過ごすことができた。連携がとれるとありがたい」と評価いただいた。
- ④ 埼玉県社会福祉士会（研修）、埼玉県立大学（公開講座）、RJ 対話の会ホームページからのアクセス。



お互いを尊重するために、  
あなたは、何を  
大切にしていますか？

### 3 成果及び今後の展開

### (1) 成果

概要	実施内容	開催月	のべ従事者 (単位：人)	のべ受益者 (単位：人)	開催回数 (単位：回)
①	集中勉強会	7月	18	28	4
②	トライアル開催	8月	15	20	3
③	試験的定期開催	9月	17	45	11
④	第1期定期開催	10月	24	39	10
		11月	22	39	11
		12月	21	30	10
	第2期定期開催 (3月まで予定)	1月	15	28	7
		2月	19	33	9
計			151	262	65

### (2) 参加者の概要

自宅や自室に引きこもる人よりも、Covid-19 の影響で、社会的交流が閉ざされ、人と交流する機会が減った多様な人々の参加が増えている。

例えば、一人暮らしの高齢者、高齢者夫婦世帯の高齢者、テレワークになって家族以外の人と話す機会がなくなった会社員、単身者、学生、Covid-19 に対応している保健医療福祉従事者などである。

### (3) 参加者の感想

#### <60代 女性 社会福祉士>

自宅に居ながら遠方の方と安心して交流でき、とても貴重な場となっている。定期的に参加することは、私の「セルフケア」の一つになっている。参加するようになって変化したことのひとつは家族との会話が長くなった。自分の気持ちや、自分が安心していられる感覚を大切にするようになった。自分を尊重するように相手を尊重することを意識するようになった。Zoom 操作に不慣れで緊張しやすい性質だが気負わずに流れに沿って参加でき、豊かな対話の場を実感している。

#### <60代 男性 会社員>

精神的な安定剤というものが必要な時代だということだが、まさに、この対話の場は、そういう場であり、広く、いろいろな人に教えてあげたい。

#### <50代 男性 会社員>

日々の生活の中に、この対話の時間を定期的に組み込んで、生活するようになった。職場でもこのような対話の空間をつくれなかと、自分なりに試みている。

#### <40代 女性 会社員>

この場に来ると、いつも精神的なデトックスを感じる。心の中にあっただ様なことが対話するだけで、いつのまにか自然に解決できていた。

#### <30代 女性 無職>



週に2回くらい対面の場にでられるようになりたいと思っているが、コロナで体調が整わない。体調が悪い時は画面をオフにして参加でき、いろいろな人の話を聴けるので、また参加したい。

#### <40代 男性 飲食業>

通常的生活では出会えない人たちと出会い、いろいろな人の話が聞けて、面白かった。対面の対話の会にも、ぜひ参加してみたい。

#### <20代 女性 学生>

家にいながら対話の会に参加し知らない人と対話することは不思議な感覚だった。40代50代の方々は自分のペースで慌てずに話していて自分も歳を重ねたら落ち着いて話せるようになるのかなと思った。会話と対話の違いを調べてみたところ、対話は関係性を築くためのコミュニケーションの意味合いが強いとわかった。

#### <20代 女性 学生>

人と関わることの大切さを改めて感じた。zoomでは会ったことのない方とトーキングピースというそれぞれが手に持っているカップやぬいぐるみ、ペットボトルについて話したり、カードから連想される思い出について1人ずつ話した。他の方の話を聞いて共感したり、同じように感じたり、知らないことを知る、新しい経験もできた。相手の話を受け止める、受け入れることについて、保育者として子どもたちや保護者の方のお話を受け止めることを大切にしないといけないなと感じた。

#### <40代 女性 療養中>

私にとって対話の会は、呼吸を整える大切な機会となっており、また、いずれは私もキーパーの役割を担えるようになりたい。対話の会との出会いをきっかけにマインドフルネスを学んでいるところだが、真髄は共通することが分かった。対話の会もマインドフルネスも、「人生がかわる」とも体感している。今、まさに求められていることだと思う。

#### <40代 男性 医療ソーシャルワーカー>

Covid-19対応している職場に勤務しているので、自宅と職場との往復の日々で、県をまたぐ移動は職場から自重するよう求められているため、ひとり暮らしの自分は誰とも話せない毎日が続いていた。しかし、この対話の場はオンラインなので、スクリーン越しとはいえマスクなしに話せて、しかも多様な人々が参加しているので、初めて会う人たちだが、旧知の間柄のような親しみを感じられ、90分があっという間だった。

以上